

ヌメヌメ
ローション
母子乱交

年がら年中風の少ない穏やかな大草原の真ん中に、大昔の小さなカルデラが沼地になったところがある。

ここには人知を超えた不思議な力が宿っており、毎年夏場の決まった期間、ドロドロの沼が透明なヌメヌメの潤滑剤風の液体に変わる。

まさに**自然のローション**だ。

人工的に作るのは限りなく不可能に近い大量のその自然の恵みにあやかるうとやってくるのは、地域に住む**母子**たち。

特段健康に良いわけでもない。もちろん食べることも出来ない。それでもその液体が“恵み”であるのは母子たちの大胆な行為に起因する。

母子たちは、ここで動物に立ち返って**大乱交**を行うのだ。

自然のローションが重宝されているのは、母子たちにとって裸で混じり合うのにこれ以上ないほどの扶掖(ふえき)となるからだ。

そう、ここへやってくる母子たちは、モラル的認識が薄いこの草原周辺地域一体の中で、親子でセックスをすることに人生最大の喜びを見出した、淫欲に盲目的なエロ亡者たちなのだ。

母は年長者で40代半ば、若くて20代後半。
息子はその母親に対比するように、〇〇代半ば～30前後までだ。

母は息子と、息子は母と。
激しくセックスすることが“日常化”している者ばかり。
それぞれインモラルのセックスに心を奪われた罪人ばかりなのだ。

「やったあっ！！またこの期間がやって来たね！！」
「そうね、このローション沼であたしたち母子同士たっぶりセックスするのよ

お！！」

「ママのおカラダとヌメヌメまみれになって混じり
合いたいよおっ！！はやくうっ！！」

この瞬間を待ち望んでいた息子たちは全員が全裸になって性器をビンビンに
勃起させ準備万端。

ヌメヌメ沼を前に大きな喜びの声を上げる。

「よおおおっ！じゃあ始めよっかあああっ！！」

「おっけえ！ヌメヌメの大乱交すたあーとおお！！」

待ちに待ったこの時。

この日集まった総勢50人前後のハイテンションの母子たちは、衣服を脱ぎ捨て
まるで天然温泉にでも入るように透明でヌルヌルの液が溜まったその沼地に
飛び込んでいく。

ドップウンツツ！！！！

母子たちが飛び込んだ衝撃で、質量の多い液体が水しぶきの半分くらいの高
さで跳ね上がる。

ジュブワァァァンツツ！！

.....。

ギラギラと空から照らす灼熱の太陽。

粘液まみれになって光る母子たちの素肌を、液体の上から焼き付けていく。

一心不乱に母子たちは混じり合っていた。

「ンジュポォ！！ンジュブブポォッ！！ンパァッ…ハァハァ…すっげえー、やっ

ぱりヌメヌメになってママとか…ンジユパア…友人たちのママとっ…あああ！！ヌ
チュヌチュになって！ズボズボし合って…あああ…ンジユボボ…乱交するのっ
て…やべえーよおおー！！ああっ！ああああ！」

「んはあああ！サカギシさんのお子さんの…んあああああ！オチンポも…んく
あああっ！ぶつといですわねえ！！んあああああ！！」

「ニシワキさんのお子さんのナイトくん！！ああああん！ナイトくんのっ！
オチンポもっ！太長くて遅しくてえ！素敵いい！！あああああああん
っ！！」

体験版はここまでです。

もし気に入っていただけましたら、

続きを製品版でお楽しみいただけると幸いです。